

5. FinTechの推進等

(1) KPIの主な進捗状況

《KPI》 今後3年以内(2020年6月まで)に、80行程度以上の銀行におけるオープンAPIの導入を目指す。

※今回、新たに設定するKPI

《KPI》 今後10年間(2027年6月まで)に、キャッシュレス決済比率を倍増し、4割程度とすることを旨す。

※今回、新たに設定するKPI

《KPI》 今後5年間(2022年6月まで)に、IT化に対応しながらクラウドサービス等を活用してバックオフィス業務(財務・会計領域等)を効率化する中小企業等の割合を現状の4倍程度とし、4割程度とすることを旨す。

※今回、新たに設定するKPI

《KPI》 2020年度までに、日本のサプライチェーン単位での資金循環効率(サプライチェーンキャッシュコンバージョンサイクル:SCCC)を5%改善することを旨す。

※今回、新たに設定するKPI

SCCC

(2) 新たに講ずべき具体的施策

FinTechについては、決済高度化アクションプラン等、金融審議会報告及び決済高度化官民推進会議において示された課題・基本的方向性を踏まえ、利用者保護等にも留意しつつ、金融サービスの高度化を図り、利用者利便や企業の生産性向上等、我が国経済・金融の成長につなげていくとの観点から取組を加速する。

i) イノベーションのための環境整備等

① FinTechを活用したイノベーションに向けたチャレンジの加速

日本発のFinTechが世界をリードしていけるよう、FinTechを活用したイノベーションに向けた関係者のチャレンジを加速する観点から、以下の施策に取り組む。

ア) チャレンジを容易化する環境整備 (FinTech実証実験ハブ(仮称))
金融庁において、FinTechに係る実証実験を容易化するための措置を